

涌谷町



産りゆう
涌谷の杞柳細工

皆さんは、衣類等を保管・運搬した道具・柳行李をご存じですか。明治から大正時代にかけて、柳行李やバスケットなどの杞柳細工は、涌谷町の特産品でした。

涌谷町は古くから水害に悩まされてきた地域で、明治30年代から水害に強い植物の栽培が模索されました。そこで注目されたのが、水辺でよく育ち、行李の材料となる杞柳（コリヤナギ）でした。町内では明治32（1899）年から試験栽培が開始され、杞柳細工の一大生産地・岐阜県の視察や、技術者指導が行なわれました。そして同40（1907）年、涌谷町では東北杞柳株式会社の設立を皮切りに、杞柳生産と杞柳細工の製作販売が本格的に行なわれるようになりました。

小さな畑の試験栽培から始まった杞柳栽培は、十数年のうちに約3000倍（約100町歩）の規模に成長し、製品も共進会等で優秀な成績をおさめたことから、杞柳事業は将来性が期待されました。しかし、明治43（1910）・大正2（1913）年の大水害で杞柳畑が深刻な被害を受けて以降、安価な輸入材の登場もあって次第に低迷し、同9（1920）年には東北杞柳株式会社が解散するに至りました。

水害をうまく乗り越える知恵から生まれた涌谷の杞柳細工は、短い製作期間でしたが、各家庭で大切に使われ続け、今日の私たちに歴史を語りかけてくれます。